



友だち できるかな?

図書館司書が選んだ

子どもに読んでほしい本 100 選

(小学生向け)

子どもの読書は…

子どもはおもしろい本に出会うと、その本の世界に入り込み、主人公とともに冒険をします。主人公が危険な目にあうとドキドキし、ゆかいなできごとには大笑いし、幸せな結末に心から満足します。

子どもたちは、読書によって様々な出会いを経験することになります。

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにします。読書が習慣化すると、学ぶ力が育つことはもとより、人生をより深く、心豊かに生きる力が身に付きます。


ここに紹介する100冊の本は、千葉県内の図書館司書が、子どもたちやご家族の方にぜひおすすめしたい本として選んだものです。家庭で過ごすひととき、お子さんと一緒に本を読んでもみませんか?

お子さんとの絆を深める大切な時間となり、保護者の皆様も読書の楽しさを改めて発見できるのではないのでしょうか。

「ライオンと魔女 (ナルニア国ものがたり1)」

戦争をさけるために田舎へ預けられた4人の兄妹は、古いタンスのむこうの不思議な国ナルニアに入り込んでしまう。恐ろしい白い魔女に支配された国を取り戻すため、真の主アスランとともに戦う4人の冒険物語。


C.S.ルイス 著 瀬田貞二 訳 岩波書店★



「冒険者たち ガンバと15匹の仲間」

ドブネズミのガンバは島ネズミを苦しめるイタチのノロイ一族と戦うため、15匹の仲間と夢見島に向かう。仲間同士助け合い、知恵と勇気をふりしぼって困難を1つ1つ乗り越えていく。

斎藤孝夫 著 岩波書店★



「モモ」

ある日モモの住む町に灰色の男たちがやってきて、人々の時間を盗みよくなる。心奪われた人々は、家族や友達との時間そっちのけで、休みなく働くようになってしまふ。モモは盗まれた時間を取り戻そうと灰色の男たちに立ち向かう。


ミヒヤエル・エンデ 著 大島かおり 訳 岩波書店



「チョコレート工場の秘密」

とても貧乏な家の男の子チャーリーは、幸運にも板チョコに入ったくじを引くまで、あこがれのチョコレート工場を見学できることに。招かれた5人の子供たちが工場の中で自にするものは…。辛口ユーモアあふれる物語。

ロアルド・ダール 著 柳瀬尚紀 訳 講談社



「クローディアの秘密」

毎日が退屈で、長女は損ばかり。嫌気がさした11歳のクローディアは、弟を誘って家を出し、メトロポリタン美術館の中にかくれ住んだ。今と違った新しい自分になりたいという願いを胸に、あるぞ解きに夢中になる。


E.L.カニグズバーク 著 松永ふみ子 訳 岩波書店



「わらしべ長者 日本民話選」

ひんぼうな若者が手に入れた一本のわらが、いろいろなものと交換されていくうち、ついには大金持ちになるお話し「わらしべ長者」をはじめ、劇作家である著者が、民話の語り口調を生かして再話した民話集。「かにむかし」など22話を収録。


木下順二 著 岩波書店



「二分間の冒険」

小学5年生の悟(さとる)は、運動場のすみで黒猫のダレカに出会い、異世界に連れて行かれる。そこは子どもだけが住み、竜に襲われ剣で戦わなければならない世界だった。元の世界に戻るため、悟はこの世界で一番大切なものを探そう。


岡田淳 著 偕成社



「トムは真夜中の庭で」

夏休みの間、おばさんの家に預けられたトムは、真夜中に古時計が13回鳴るのを聞いた。すると、家の裏口に庭園にはなかった庭園があらわれ、トムは昔風の服を着たハティという少女に出会う。トムとハティは友だちになって…。


フィリップ・ピアス 著 高杉一郎 訳 岩波書店



「だれも知らない小さな国 (コロボックル物語1)」

小学3年生の頃、秘密の遊び場で見かけた小指くらいの小さな人。時が過ぎ、またそこを訪れたことで、僕は彼らと再会する。もしかしたらコロボックルがそばにいるかもしれない。そんな気がするようなファンタジー。

佐藤さとる 著 講談社★



「ルドルフとイッパイアッテナ」

ひよんなことから見知らぬまちに来てしまった猫のルドルフ。出会ったボス猫のイッパイアッテナは少し怖いけれど、頼れる存在で、特技は人間の文字を読むことだった。ルドルフはのら猫生活の知恵を学びながら、文字も学ぶことに。


斎藤洋 著 講談社★



「ふたりのロッセ」

夏休みの林間学校で出会ったロッセとルイーゼ。ふたりは髪型以外そっくりだった。自分たちがふたごの姉妹であることを知ったふたりは、別れた両親を仲直りさせようと考え、入れかわりを計画する。

ケストナー 著 高橋健二 訳 岩波書店



「アラスカたんけん記」

学生時代にアラスカに魅了された著者は、カメラマンとなり再びアラスカへ。カヌーで氷河の崩壊に遭遇したり、カリブーの群れを追いかけ雪道をひたすら歩いたり、大自然の中で奮闘した体験を臨場感あふれる写真とともに記す。

星野道夫 文・写真 福音館書店



「魔女の宅急便」

魔女のキキは、13歳になる年に親元を離れ、知らない町で独り暮らしを始める。ほうきで空を飛んで届け物をする宅急便屋となり、変わった依頼を受けながら町になじんでいく。キキと黒猫のジジの1年間を描いた物語。

角野栄子 著 福音館書店★



「魔法使いのチョコレート・ケーキ」

魔法はへただがおいしいチョコレート・ケーキを作る魔法使いが、子どもたちを招待してパーティーを開こうとしても、だれ一人やって来ない。そこでりんごの木を相手にお茶会を開くと…。他7編の物語と詩2編を収録した短編集。

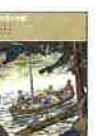
マーガレット・マーヒー 著 石井桃子 訳 福音館書店



「二年間の休暇」

夏の休暇にヨットで船旅を楽しむはずだった寄宿学校の少年たちは、大人を乗せずに船出してしまい、無人島に流される。船はこわれ、助けはのぞめない。少年たちは無人島で自分たちなりに生活しようと力を合わせ、困難に立ち向かう。

J・ヘルズ 著 朝倉剛 訳 福音館書店



「精霊の守り人」

上橋菜穂子 著 偕成社★

名用心棒として知られた女剣士(短槍(たんそう)使いのバルサ)。偶然から新ゴゴ皇国第二皇子の身を預かるが、皇子は(精霊の守り人)のさだめを負っていた。8人の命を救うという「誓い」をたてたバルサの運命を描く壮大なファンタジー。

「あのころはフリードリヒがいた」

ハンス・ペーター・リヒター 著 上田真由子 訳 岩波書店

「ぼく」と1週間離れて生まれた「フリードリヒ」は幼なじみだった。ただひとつ、ぼくはドイツ人でフリードリヒはユダヤ人だったことが、悲劇の始まりだった。戦争を知るためにぜひ読んでおきたい作品。

「影との戦い (ゲド戦記1)」

ル・グウィン 著 清水真砂子 訳 岩波書店★

魔法を学ぶ学院で修行中のゲドは、ライバルに自分の力を見せつきたいと望む。魔法の力の試し合いで呼び出した呪文を使い、死者の霊を呼び出し、影を放ってしまう。ゲドはその影に追われ、戦うことになる。

「ともしびをかかて上・下」


ローズマリ・サトクリフ 著 猪熊葉子 訳 岩波書店★

ローマ帝国が衰退し、サクソン人によって侵略されたある村で、地方軍団の指揮官アキラは軍引き上げの時脱走し敵軍の村を守ることを決意する。敵の奴隷となっても強い意志を貫いて闘うアキラの生きざまを描く。

◆ふれあい読書「家読(うちどく)」のススメ

家庭でのふれあい読書を意味する「家読(うちどく)」は、読書を通して、家族の絆やコミュニケーションを深めることを目的とし、方法は自由に、各家庭で本の楽しみ方があります。

- 家族で同じ本を読み、感想を話す
- 家族で絵本を読みながら楽しい時間を過ごす
- 大人が子どもに本を読み聞かせる
- 家族で読書の日や読書タイムを設ける
- 子どもが大人や家族に本を読む
- 大人が子どもに読書の思い出を語る など



●対象年齢は目安です。シリーズや続編もおすすめしたい作品には、出版社名に★印がついています。

●ここで紹介する本は、千葉県内の図書館司書が所属する、千葉県公共図書館協会が選んだものです。

●このリーフレットは千葉県教育委員会のホームページからダウンロードできます。

発行/千葉県教育庁教育振興部生涯学習課

〒260-8662 千葉市中央区市場町1番1号 TEL:043-223-4072 FAX:043-222-3565

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shougaku/dokusho/index.html>




千葉県マスコットキャラクター チーバくん

千葉県教育委員会

